

# 令和4年度 福井県立大学訪問研修

- 1 期 日 令和5年3月7日(火)
- 2 場 所 福井県立大学 永平寺キャンパス・あわらキャンパス
- 3 参加生徒 1学年生徒88名
- 4 報 告

〈午前中 講義〉

最初に元高志中学校長でもある窪田裕之理事長から、高校までと大学の学びの違い、答えのない問いに対してどのように向き合っていくのか、などについてご自身の体験を交えながらお話しいただきました。

次に、生物資源学部の教育について学部長の日井隆雄先生、生物資源学科の深尾武司先生からお話いただき、その後生物資源学科、創造農学科で行われている研究内容について教えていただきました。生物資源学科は、染色体の再構成による形質変化の研究に取り組んでいらっしゃる風間裕介先生から、人工的に染色体の再構成に変化を起こし、花の形を変えたり、新しい形質を生み出したりする実験の紹介と、道なき道を進んでいく研究の楽しさややりがいについて熱く語っていただきました。また創造農学科では村井耕二先生から、SDGsを追及するナチュラルリストとして様々な品種改良やスマート農業、伝統食や伝統文化の研究を行っていることをご紹介いただきました。持続可能な環境・社会に対して、「農」が食、環境、文化、生活のすべてに大きな影響を与えており、これからの社会に大変重要な学問であるということがわかりました。



〈午後 実習〉

午後は、タンパク質科学、微生物学、園芸学の3グループに分かれ、実習を行いました。

タンパク質科学では、タンパク質を使った生物発光の実験、指紋の検出、タンパク質の立体構造の観察を行いました。生物発光の実験ではウミホタルの乾燥粉末を使い、実際に発光する様子が観察され、歓声があがっていました。微生物学では、ウミホタルの発光や酵母の発酵など、酵素の反応や酵母の働きを間近で観察したり、においを嗅いだりして、微生物の働きを実感することができました。微生物が食や創薬の分野で働いて、自分たちの生活の役に立っていることを知ることができ、生徒たちは大変驚いたようです。園芸学では、ニンジン収穫体験および糖度計を使った糖度計測を行いました。普段スーパーなどで目にする野菜がどのように店頭には並ぶ姿になるのか、また野菜のおいしさを表す指標の一つである糖度とはどのようなものかを知ることができました。

